
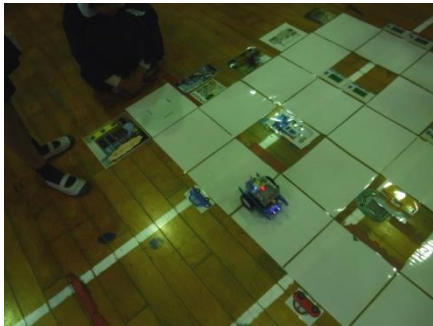


小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	「走れ！赤崎ロボット」
学年	小学校第4学年
目標	自分たちの学校生活をより便利にするためにロボットを操作すると仮定し、ロボットを目的地まで動かすプログラミングを通して、思い通りに動かすための方法を論理的に考えることができるようにする。また、これらの学習を通して、プログラミングの楽しさを味わいながら、よりよく生きるためのツールとしてプログラミングへの興味関心をもたせる。
教材タブ	テキスト言語・ビジュアル言語
使用教材	「mBlock」・「mBot」
環境	児童2人で1台の端末を使用
都道府県	山口県
実施校	山陽小野田市立赤崎小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>学習活動の概要</p> <p>給食室から教室まで給食を運搬するルートを考えて、ロボットを動かすプログラミングをする。そのために、次のような学習活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">○ ワークシートに自分たちが考えたルートを書き込む。○ これまでに学習したことを生かして、直進や旋回の仕方を確認したり、タイルの枚数に応じて進む秒数を考えたりする。○ ワークシートに書き込んだ数値を参考にして「mBlock」を使って、プログラミングをする。○ 校舎図をモチーフにしたタイルコースを使い、「mBlock」を使ってプログラミングした「mBot」を試行錯誤しながら動かすことで、プログラミング的思考を身に付ける。 <div data-bbox="434 1391 868 1715"></div> <div data-bbox="951 1391 1385 1715"></div>
成果と課題	<p>成果としては、目的意識をもってロボットを動かすことで、プログラミング的思考を身に付け、デジタル表現やフィジカル表現等、これまでにない表現方法で、思考したことを他者に伝えることができるようになった。</p> <p>課題としては、パソコン操作に個人差が大きく、「mBot」や「mBlock」に関するスキルの習得に時間がかかってしまうことである。</p>